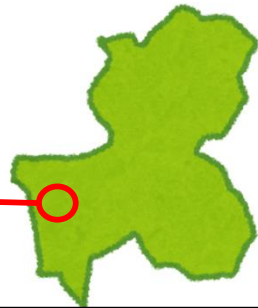


産地パワーアップ事業の取組事例(30年度:計画作成主体:揖斐川町農業再生協議会)(岐阜県)

取組の概要

対象品目 : 水稻(産地面積25.5ha)
 主な取組主体: 揖斐川町
 農業者 44名
 成果目標 : 集出荷コストの10%以上の削減
 基準(H28年度) 11,411円/10a
 目標(R2年度) 8,324円/10a
 導入施設等 : 整備事業(乾燥調製施設)

岐阜県
 揖斐川町
 坂内地区



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

既存ライスセンターは利用農家毎に個別に乾燥調製の受け入れをしてきたため、1日当たりの処理量が限られ、施設の稼働日数が1ヶ月以上かかり施設の稼働効率が悪く高コストな乾燥調製となっていた。また、施設への受入ができないことで、刈取りが適期に行われず、米の品質低下を招いていた。



【産地の体質強化に向けた方策】

個別処理からプール処理(共同乾燥)に転換するため

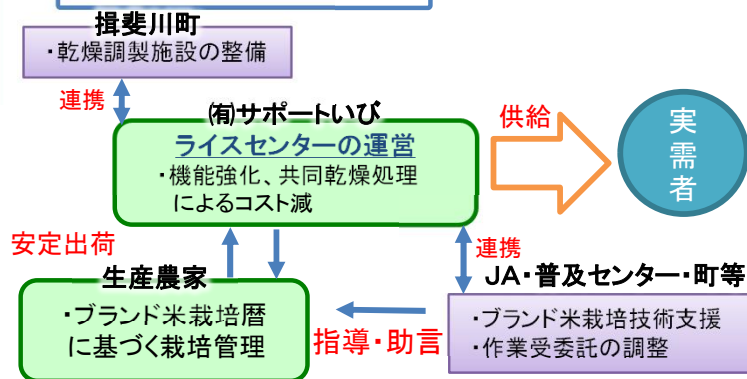
① 共同乾燥調製(プール処理)を行うために必要な機材の整備

② 乾燥機の実力の増強(12.8t/day→13.5t/day)

により、乾燥機の稼働率と効率的な運用を図る。

また、稼働日数の縮減により集出荷コストの10%以上削減を図る

産地体制



地域における独自の取組

〈主な取組〉

・地域ブランド米の生産拡大、定着化の推進

取組成果

【事業実施による直接効果】

施設の機能強化及び共同乾燥によるコスト削減効果

【事業実施による間接効果】

JAによる農作業受託支援により、耕作放棄地の発生を抑制



集出荷コストが
30%低減
 (達成率112.4%)

